

---

## 概要

---

### 1 調査の目的

本調査は、2018 年度に日本国内の大学・公的研究機関において研究に従事しているポストドクター等の雇用及び進路状況を把握することにより、若手研究者を取り巻く課題を分析し、研究人材の育成や支援に関する今後の施策の検討に資することを目的としている。

### 2 調査対象と調査方法、調査項目等

調査対象機関は、大学(短期大学を除く)、大学共同利用機関、国立試験研究機関、公設試験研究機関、研究開発法人とする。研究開発法人とは、「科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律」(平成二十年法律第六十三号)第二条第九項に定める法人を指す。

本調査では、2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日に上記調査対象機関に、「ポストドクター等」として在籍していた者全員を調査対象者とする。調査対象機関は、調査の記入要領に記載された調査用ウェブサイトから Excel 形式の調査票をダウンロードし、記入要領に従って自機関の状況について記入した後、調査票 Excel ファイルを調査用メールアドレス宛に送付する仕組みとした。

調査項目は以下のとおりである。

- ポストドクター等の基本情報(所属機関、性別、国籍・地域、生年、博士課程修了年度、博士号の有無)
- ポストドクター等の採用前の状況(職業等、所属、所在)
- ポストドクター等の研究状況(分野、在籍研究室の企業との共同・受託研究の実績)
- ポストドクター等の雇用状況(主な雇用財源、機関負担の社会保険加入状況、所属開始年、任期の長さ、契約可能な最長期間)
- ポストドクター等の 2019 年 4 月 1 日時点での在籍状況
- ポストドクター等の転出・異動状況(職業等、所属、所在、任期)
- その他

なお、今回(2018 年度)の調査は、2015 年度調査と同様に、回答者の負担軽減のため、年間の「延べ人数」のみの調査とした。それに伴い、2015 年度より前の調査における報告データとの比較は困難である。

### 3 本調査におけるポストドクター等の定義

博士の学位を取得した者又は所定の単位を修得の上博士課程を退学した者(いわゆる「満期退学者」)のうち、任期付で採用されている者で、①大学や大学共同利用機関で研究業務に従事している者であって、教授・准教授・助教・助手等の学校教育法第 92 条に基づく教育・研究に従事する職にない者、又は、②研究開発法人等の公的研究機関(国立試験研究機関、公設試験研究

機関を含む。)において研究業務に従事している者のうち、所属する研究グループのリーダー・主任研究員等の管理的な職にない者をいう。

#### 4 結果

日本国内の大学・公的研究機関 1,180 機関を対象に、2018 年度におけるポストドクター等の雇用・進路に関する調査を実施した。統廃合等の 4 機関を除く 1,176 機関のうち、1,176 機関より回答を得て(回収率 100%)集計・解析したところ、以下のことが明らかとなった。

- 2018 年度においてポストドクター等が1人以上在籍していると回答した機関は、1,176 機関中 289 機関(24.6%)、延べ人数は 15,590 人であり、前回(2015 年度)の調査に比べ、320 人の減となった。
- ポストドクター等のうち、年齢不明者 1 人を除き、男性は、10,948(70.2%)、女性は、4,641 人(29.8%)であり、平均年齢は、37.5 歳(男性 37.2 歳、女性 38.1 歳)であった。前回の調査に比べ、女性の割合が増加し、全体の平均年齢の上昇が認められた。
- ポストドクター等のうち、外国籍の者は、4,693 人(30.1%)であり、前回の調査に比べ、258 人の増(2.2 ポイント増加)であった。国籍・地域別では、中華人民共和国・インド・大韓民国などアジア系の国・地域の出身者が多く、3,222 人であった。
- 民間企業との共同・受託研究契約を有している研究室に所属するポストドクター等は、6,375 人(40.9%)であり、前回の調査に比べ、411 人の増(3.4 ポイント増加)であった。
- ポストドクター等の主な雇用財源は、基盤的経費等による雇用が最も多く 5,208 人(33.4%)、次いで競争的資金により雇用されているポストドクター等が 3,299 人(21.2%)であった。競争的資金以外の外部資金による雇用が 3,086 人(19.8%)であり、前回の調査に比べ、1,233 人の増(8.2 ポイント増加)であった。
- 大学・公的研究機関に雇用されているポストドクター等の任期の長さについて、「3 年未満」の者は、10,533 人(67.6%)であり、前回の調査に比べ、168 人の減(0.3 ポイント増加)であった。
- 契約可能な最長期間は、今回(2018 年度)の調査より調査項目に追加された。大学・公的研究機関に雇用されているポストドクター等の契約可能な最長期間について、「10 年以上」が 3,345 人(21.5%)と最も多く、次に「5 年以上 6 年未満」が 1,991 人(12.8%)と多かった。
- ポストドクター等の前職について、ポストドクター等であった者は、4,696 人(30.1%)であり、前

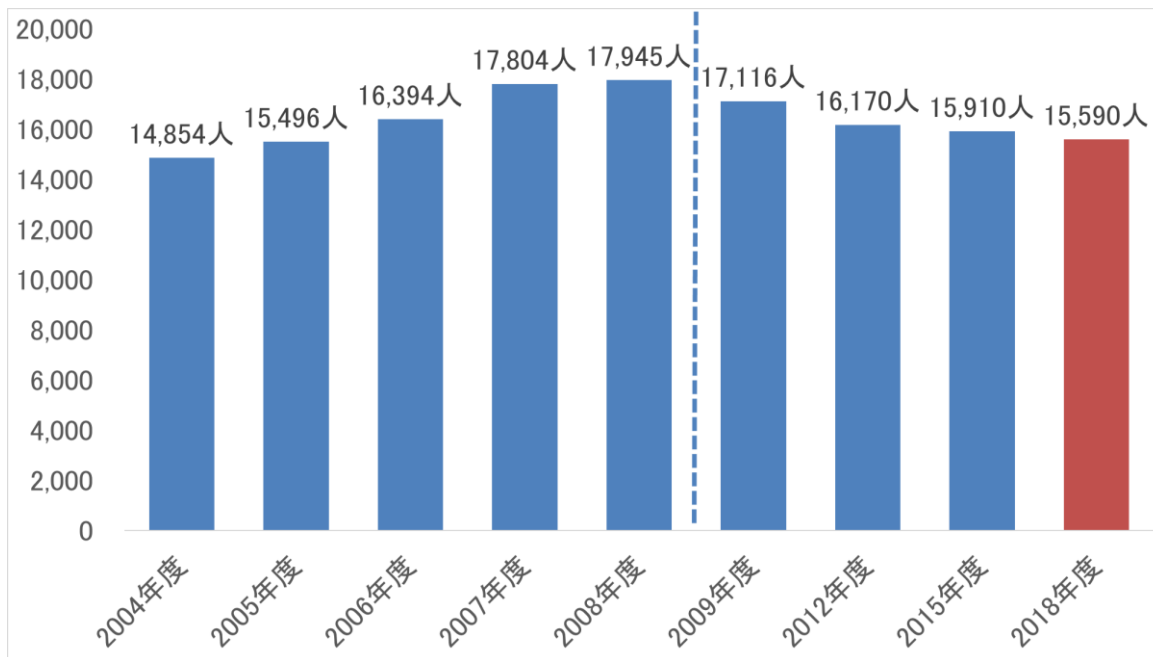
回の調査に比べ、586人の減(3.1ポイント減少)であった。博士課程学生であった者は、4,322人(27.7%)であり、前回の調査に比べ、322人の減(1.5ポイント減少)であった。博士課程学生であった者は、自機関の出身者が他機関を上回っていた。

- ポストドクター等の次年度(2019年4月1日時点)在籍状況について、次年度にポストドクター等を継続している者は、11,101人(71.2%)であり、前回の調査に比べ、17人の減(1.3ポイントの増加)であった。次年度に大学教員やその他の研究開発職に職種変更した者は、2,030人(13.0%)であり、前回の調査に比べ、324人の減(1.8ポイント減少)であった。

(1) ポストドクター等の延べ人数: 概要図表 1

2018 年度におけるポストドクター等の延べ人数は 15,590 人であり、前回調査の 15,910 人から微減の傾向にある。

概要図表 1 ポストドクター等の延べ人数の推移



注) 調査方法の変更により、2008 年度以前と 2009 年度以降を厳密に比較することはできない。

## (2) ポストドクター等の性別と年齢: 概要図表2

2018年度におけるポストドクター等のうち、男性は10,948人(70.2%)、女性は4,641人(29.8%)であった。平均年齢は37.5歳(男性37.2歳、女性38.1歳)となった。前回の調査に比べ、女性の割合が増加し、全体の平均年齢の上昇が認められた。

概要図表 2 性別のポストドクター等の人数

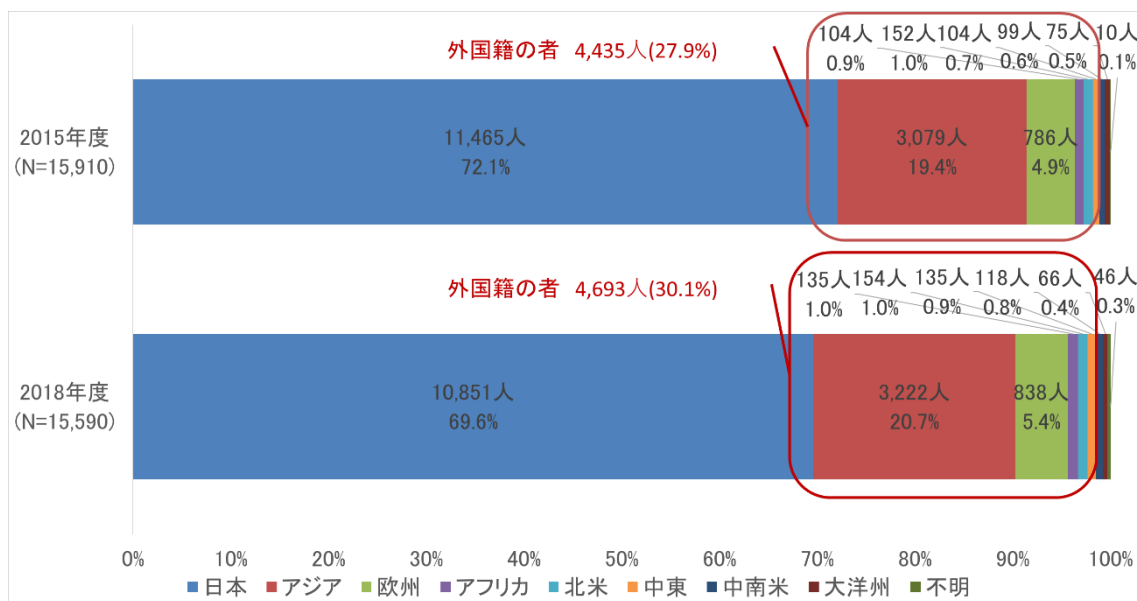
性別	人数		比率(%)		平均(歳)		中央値(歳)	
	2015年度	2018年度	2015年度	2018年度	2015年度	2018年度	2015年度	2018年度
男性	11,302	10,948	71.1%	70.2%	36.0	37.2	34	34
女性	4,600	4,641	28.9%	29.8%	37.0	38.1	35	36
計	15,902	15,589	100%	100%	36.3	37.5	34	35

注)2015年度は性別・年齢不明者8人、2018年度は年齢不明者1人を除く

(3) ポストドクター等の国籍・地域別:概要図表 3

2018 年度におけるポストドクター等のうち、日本籍の者は、10,851 人(69.6%)、外国籍の者は、4,693 人(30.1%)、不明 46 人(0.3%)であった。外国籍の者が 4,693 人(30.1%)、前回の調査に比べ、258 人の増(2.2 ポイント増加)であった。国籍・地域別では、中華人民共和国・インド・大韓民国などアジア系の国・地域の出身者が多く、3,222 人であった。

概要図表 3 国籍・地域別のポストドクター等の人数



注)2018 年度は 2015 年度と地域の分け方を変え、外務省の地域別に準じた。

(4) ポストドクター等の分野:概要図表 4

2018 年度におけるポストドクター等の分野は、理学が最も多く、5,737 人(36.8%)、次いで工学 3,315 人(21.3%)、保健 2,648 人(17.0%)、農学 1,286 人(8.2%)、人文 1,078 人(6.9%)、社会 756 人(4.8%)であった。

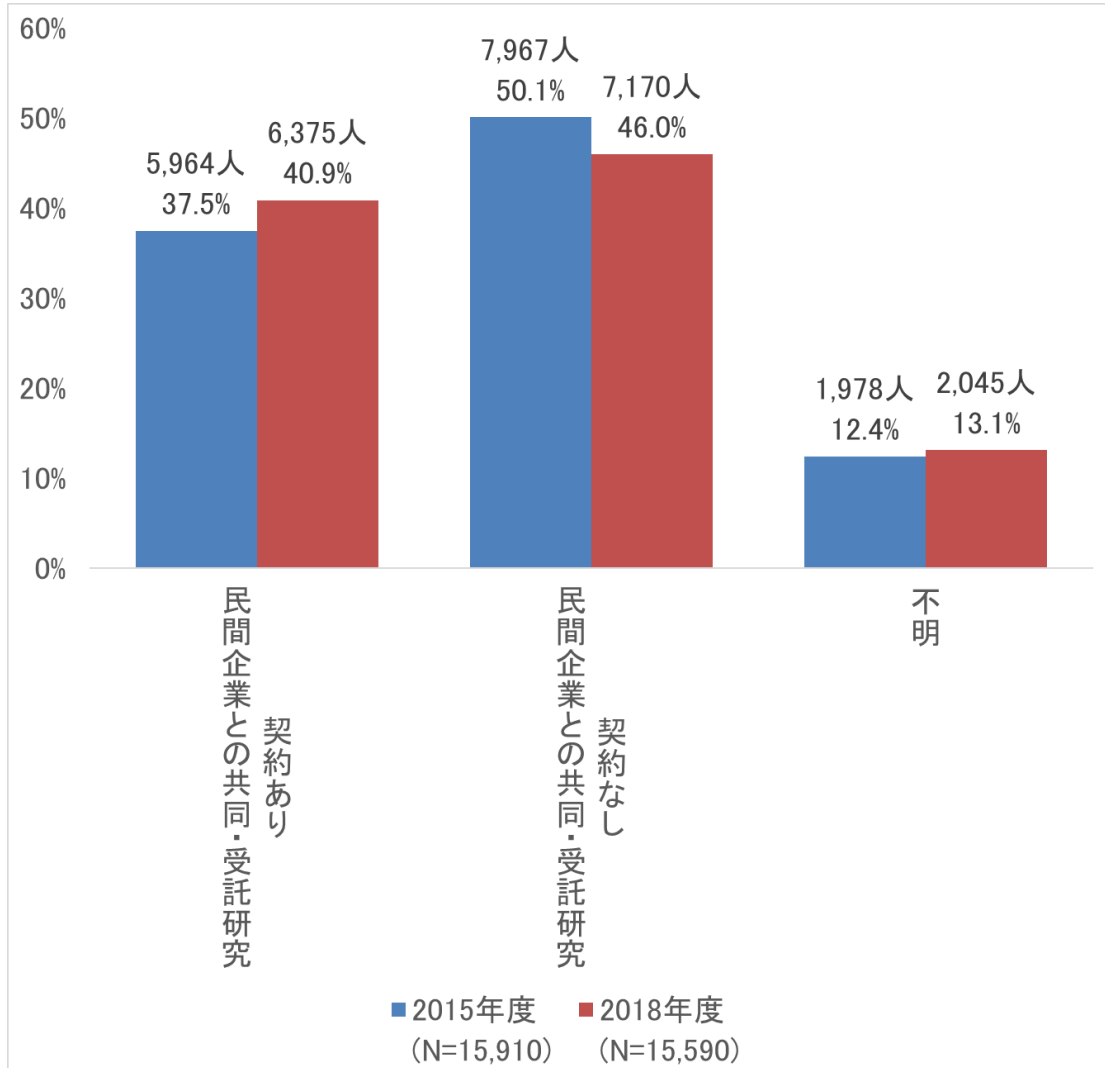
概要図表 4 ポストドクター等の分野



(5) 民間企業との受託・共同研究の実施状況: 概要図表 5

2018 年度における民間企業との共同・受託研究契約を有している研究室に所属するポストドクター等は、6,375 人(40.9%)、契約を有していない研究室に所属するポストドクター等は、7,170 人(46.0%)であった。

概要図表 5 ポストドクター等の所属研究室における民間企業との共同・委託研究の実施状況



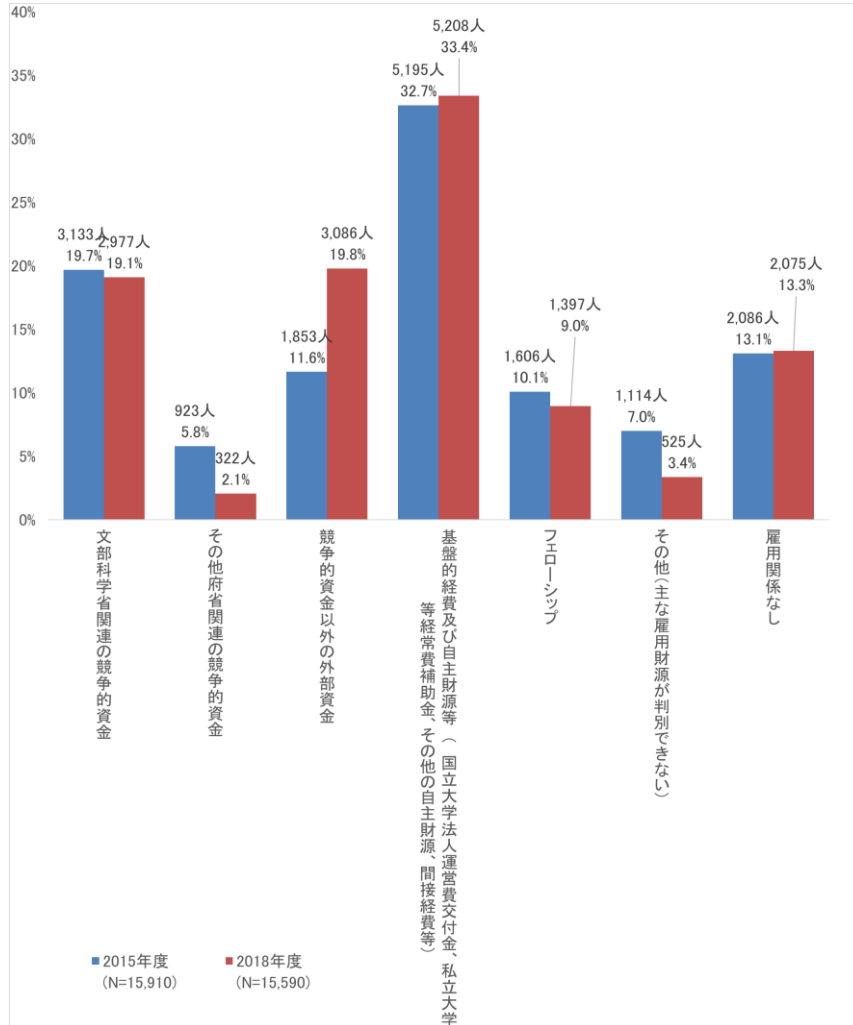
注)2015 年度は未回答者 1 人を除く



(6) ポストドクター等の主な雇用財源: 概要図表 6

2018 年度におけるポストドクター等の主な雇用財源は、基盤的経費等による雇用が最も多く 5,208 人(33.4%)、次いで競争的資金による雇用が 3,299 人(21.2%)、競争的資金以外の外部資金による雇用が 3,086 人(19.8%)であった。

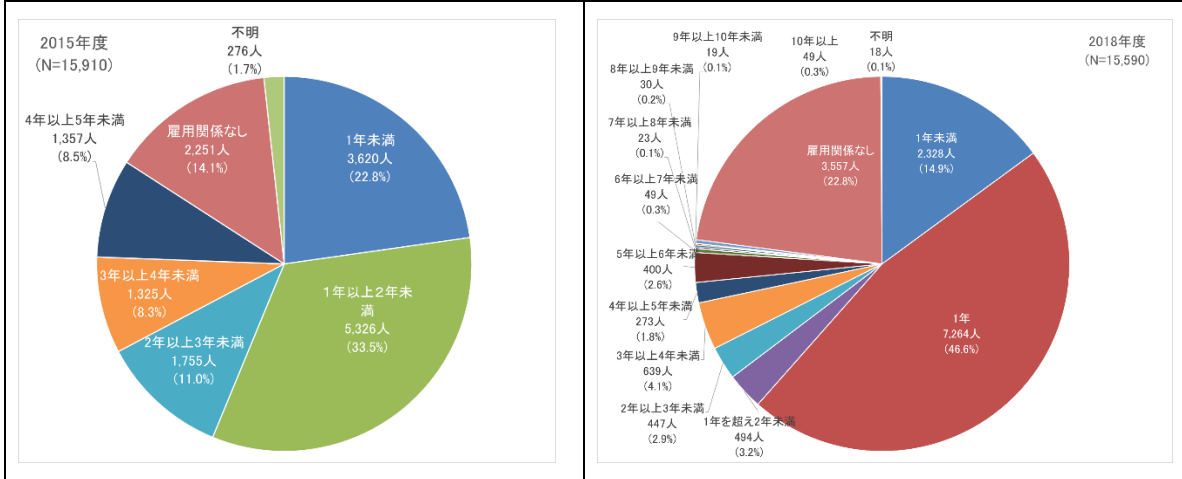
概要図表 6 ポストドクター等の主な雇用財源



(7) ポストドクター等の任期の長さ: 概要図表 7

2018 年度における大学・公的研究機関に雇用されているポストドクター等の任期の長さについて、「3 年未満」の者は、10,533 人(67.6%)であった。

概要図表 7 ポストドクター等の任期

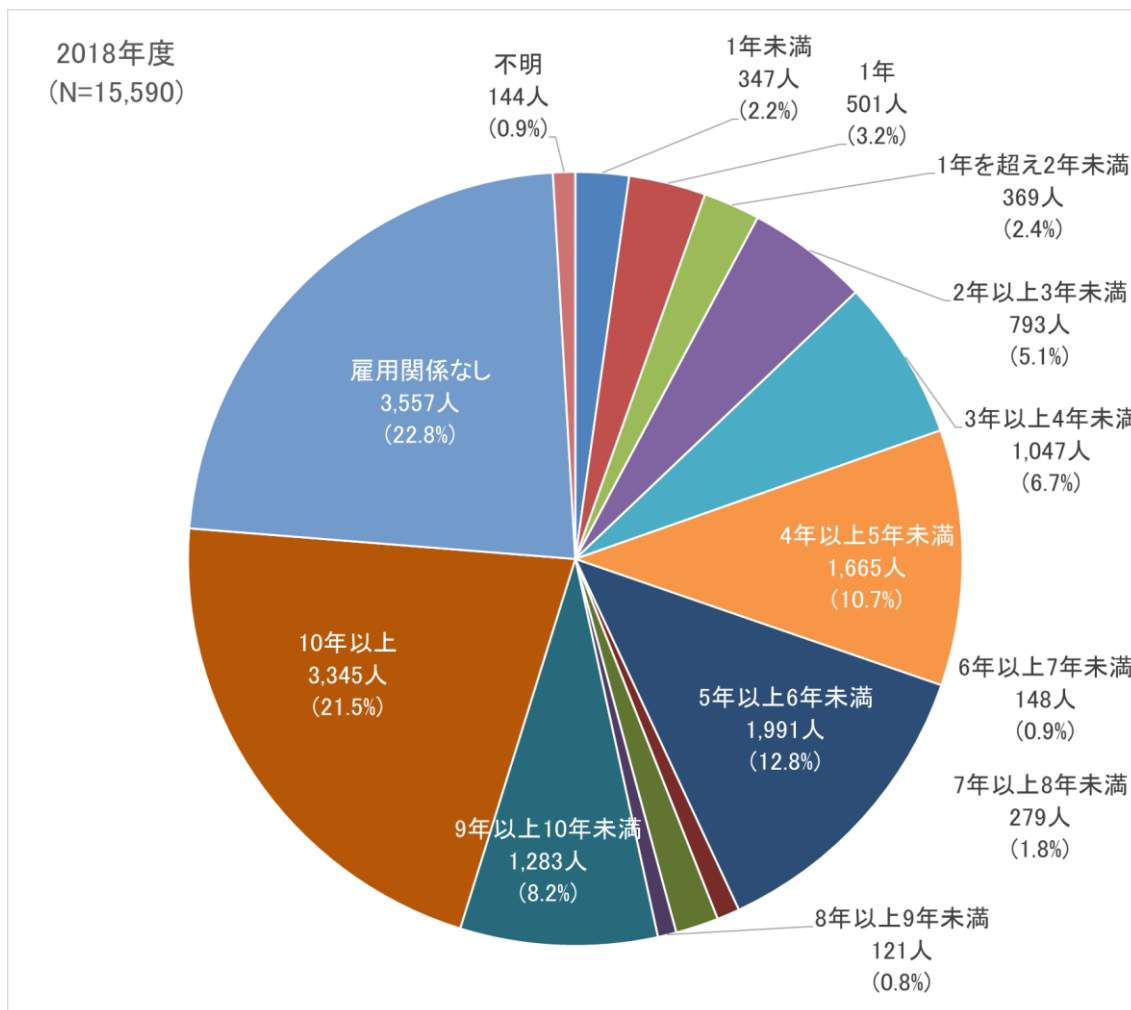


注) ポストドクター等の任期の長さの回答における選択肢について、2015 年度調査においては「1 年以上 2 年未満」であったものを、2018 年度調査においては「1 年」及び「1 年を超え 2 年未満」に変更し、任期のより詳細な回答を求めた。また、2015 年度調査においては、雇用任期の長さを回答することとしたが、回答した機関によって任期の長さの扱いの違いから、任期に対する解釈が異なる可能性があったため、2018 年度調査においては、雇用契約の期間の長さを回答することとした。

(8) ポストドクター等の契約可能な最長期間:概要図表 8

2018 年度における大学・公的研究機関に雇用されているポストドクター等の契約可能な最長期間について、「10 年以上」が 3,345 人(21.5%)と最も多く、次に「5 年以上 6 年未満」が 1,991 人(12.8%)と多かった。なお、契約可能な最長期間は、2018 年度調査より調査項目に追加された。

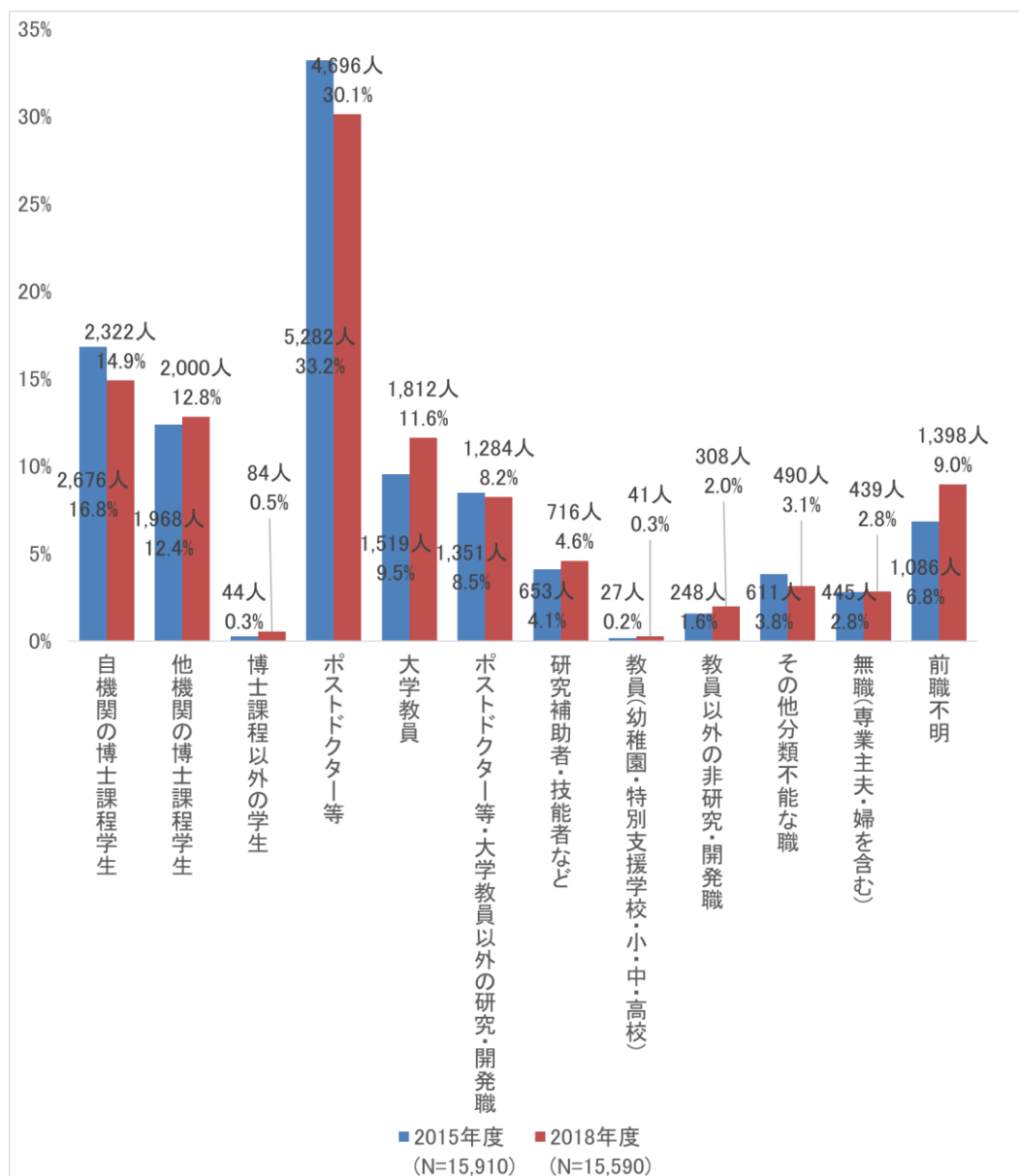
概要図表 8 ポストドクター等の契約可能な最長期間(2018 年度)



(9) ポストドクター等の前職: 概要図表 9

2018 年度におけるポストドクター等の前職は、ポストドクター等であった者が 4,696 人(30.1%)、次いで博士課程学生が 4,322 人(27.7%)であった。また、博士課程学生であった者は、自機関の出身者が他機関を上回っていた。

概要図表 9 ポストドクター等の前職



注)2015 年度調査では、在籍研究室にポストドクター等として採用される前の職業を回答することとしたが、2018 年度調査においては、所属機関にポストドクター等として採用される前の職業を回答することとした。

(10)ポストドクター等の次年度在籍状況: 概要図表 10

2018 年度におけるポストドクター等の次年度在籍状況は、次年度にポストドクター等を継続している者(図表青枠)は、11,101 人(71.2%)、大学教員やその他の研究開発職に職種変更した者(図表赤枠)は、2,030 人(13.0%)であった。

概要図表 10 ポストドクター等の次年度在籍状況

